

柳川は、我が詩歌の母胎
詩聖、北原白秋が生まれ育ったまちです。

白秋が 愛した柳川

北原白秋(本名、隆吉)は、時代を超え人びとの心に残る作品を数多く残した詩人であり、童謡作家であり、歌人です。

明治18年(1885)、酒造業を営む北原家に生まれた白秋は、「トンカジョン(大きな坊ちゃん)」と呼ばれ、6人の平家落人が港を開いたという「六騎伝説」が語り継がれる沖端で華やかな少年時代を過ごしました。有明海を通じて行き交うものと人。生命力と天性の明るさに富んだ作風は、このまちそのものでした。

しかし白秋が16歳の時、大火で酒蔵が全焼し、家は傾きます。傷心の白秋は没頭していた詩歌の創作へとさらにのめりこ



みやがて出陣同然で上京。与謝野鉄幹、石川啄木らと交流しながら、26歳の時に書き上げた処女詩集「邪宗門」の耽美な詩文を賞賛をあびます。その2年後に出陣し、帰郷果「思ひ出」は、故郷柳川と破産した美家に捧げる懐旧の情で、白秋の名を世に知らしめました。57年の生涯で2万点以上の作品を残した白秋。山田耕筈との「からたちの花」などは日本の心ともいえる童謡の傑作です。

白秋がずっと抱いていた、帰りたくても帰れない故郷柳川への思い。されど、昭和3年、20年ぶりの帰郷を柳川の人びとは熱狂的に迎えたのです。

この生家は、焼け残った母屋を保存活動によって復元したもので、記念館とあわせ、その激動の人生と人間像に迫る展示は心を揺さぶります。絶筆となった「水の構図」に、「柳河は我が詩歌の母體」と遺した白秋。柳川を愛してやまなかった、その思いにふれる沖端界隈の散歩道です。

●北原白秋生家記念館

柳川市沖端町茶番地1

☎0941-770-6773

開館時間／午前9時～午後5時 休館日／年末年始 観覧料／大人500円、高校生・大学生450円、小中学生250円